

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいずリズム大曲（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	情緒が安定した状態で活動に参加できるように、一人一人の特性や好きなことの把握に努めている。	・幼児は特に、情緒が左右されることも多いため、支援前後に職員間で、前回の園・家庭・リズムでの様子を再共有し、一人一人の子どもの様子を把握することに努めている。安心して活動に参加できるための援助方法を話し合ってから受け入れをできるようにしている。	・引き続き、職員一人一人が子どもの見取る力を付けていき、子どもたちが安心してみらいずリズムの活動に参加し、達成感や満足感を得ながら療育を受けられるようにしていく。
2	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの向上に向けた支援ができています。	・言葉で思いを表すことが難しい児童に対して、視覚情報を使ったり、音楽というツールを活用して自己表現を促したりできるように心がけている。 また、保護者に子どもの様子や成長を様々な方法で子どもが表してくれていることを感じられるような伝え方を意識し、喜びを共有したり、効果を実感したりしてもらえるようにしている。	・感じたことを音や表情で表出できる機会や方法を増やす。子どもたちの可能性を最大限に引き出していけるようにする。 ・活動の目的、効果をしっかりと把握していく。
3	送迎時や園送迎で会う機会がない保護者とも、連絡帳の他に都度、ラインなどで子どもの様子を伝え合うことができています。	・保護者様から、子どもの発達や日々の姿で困っている事、悩みを共有してもらおうことができ、よりよい支援につなげている。また、保護者様にもリズムでの関わりで有効な関わりや取り組み姿を伝えることで、家庭での関わりの参考になっているとの声もあり、両輪で子どもたちの成長を支えることができています。	・保護者様に取り組みや成長を伝えるだけではなく、園や地域にもリズムの活動、良さを知ってもらえるように発信していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練など、非常災害の発生に伴う避難訓練の実施。 避難訓練年間計画で今年度中に実施予定であったが、もう少し早めに実施が必要であったと考える。	・災害時に向け、職員間で必要な役割、一次、二次避難場所の確認、緊急連絡先を会社携帯電話に登録等は行っている。	・水害、地震、火事、不審者訓練の実施。 様々な場面を想定、職員編成の中で行う。 ・保護者への周知。 ・新規児童、都度、緊急連絡先を登録。円滑に保護者と連絡が取れるようにする。 ・契約時に、水害等の避難について説明する。
2	保護者同士の交流や研修の機会をつくっていく。	・オープンから間もないこともあり、ペアレントトレーニングなどを実施する機会を設けることができていない。 子どもたちが新しい場所、活動に慣れることを優先していたため授業参観なども未実施。	・来年度、ペアレントトレーニングを実施。 家庭での子育てのヒントとなるように場や機会の提供をしたり、授業参観を行い、子どもの成長や様子を見たりしてもらえる機会をつくっていく。
3	年齢や発達に応じた活動内容を今後も検討し、提供していく。 年齢（月齢）による発達の差が大きく、活動内容によっては個別支援が必要。	・一人一人に合わせて言葉かけを行い、安心して活動に取り組めるように配慮しているが、年齢や発達によってプログラム内容が難しい場合もあるため、年齢や発達に合わせた内容、教材を部分的に取り入れていく必要がある。	・プログラムが固定化しないように、毎月職員で話し合う。 ・月ごと季節や発達を考慮した活動内容、教材の研究と実態把握。